

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

福井県公立丹南病院組合 丹南病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	16	対象	ド透訓	救臨感へ災輸
人口(人)	建物面積(m <sup>2</sup> )	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	15,070	-	第2種該当	7:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
175	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	4	179
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
148	-	148

グラフ凡例	
■	当該病院値(当該値)
—	類似病院平均値(平均値)
[ ]	令和6年度全国平均

## 経営強化に係る主な取組(直近の実施時期)

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## I 地域において担っている役割

公立丹南病院は、丹南地域の中核病院として、救急医療・急性期医療・回復期医療を一体的に提供し、地域住民の健康を支える重要な役割を担っている。また、地域医療機関や介護施設と連携し、在宅復帰支援や地域包括ケアの推進に寄与するなど、地域医療体制の中心的存在となっている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は年々悪化しており、通常の医療提供による収益だけでは経常的な費用を十分に賄っていない状況である。また、医業収支比率、修正医業収支比率については現状維持ではあるが、いずれも100%を下回っている。その要因としては、病床利用率の低さにあり、利用率の低迷が収益悪化に直結している。今後は病床稼働の改善に向けた取組が必要である。

入院患者1人1日当たり収益は現状維持ではあるが、外来患者数が減少したことにより外来患者1人1日当たり収益は平均を下回っている。職員給与費対医業収益比率は平均を下回っており、概ね適正であるが、材料費対医業収益比率が平均を上回っており、医薬品等の共同購入を行い、費用の抑制に努める必要がある。

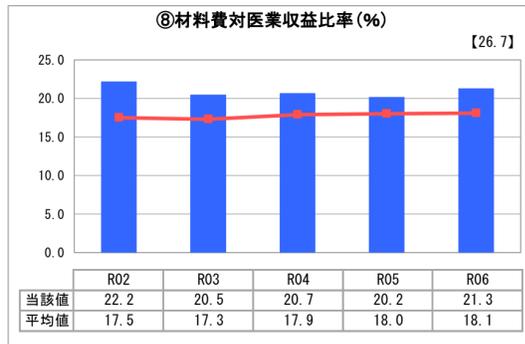
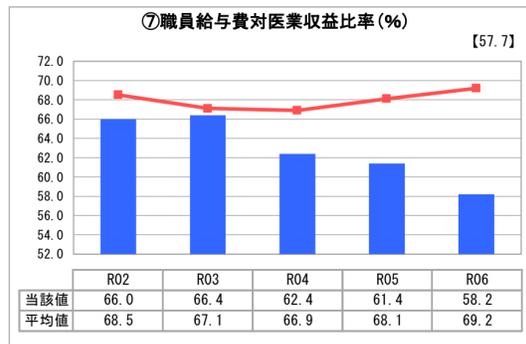
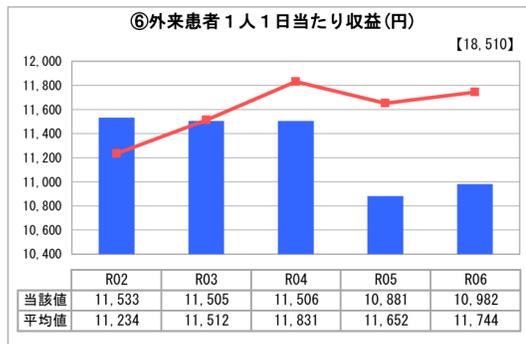
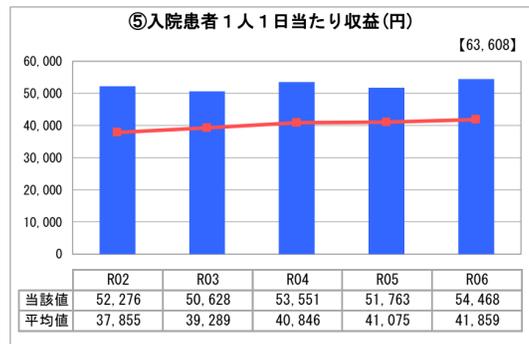
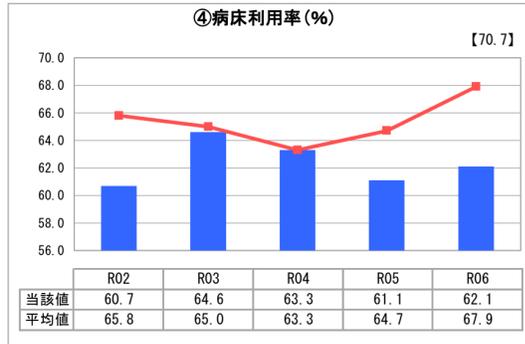
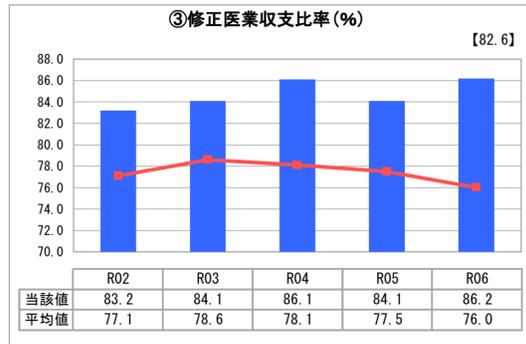
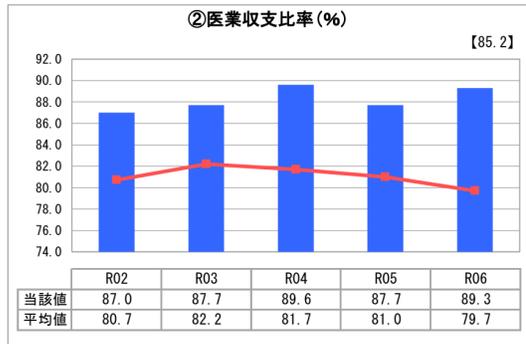
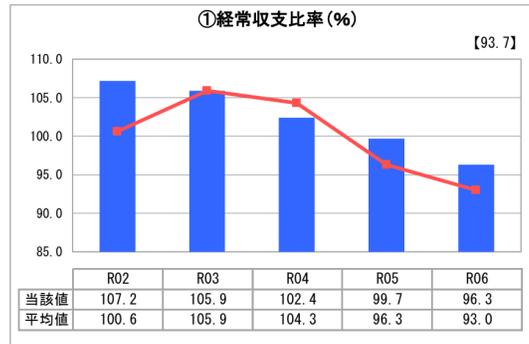
### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、器械備品減価償却率ともに平均を下回っているが、医療機器は法定耐用年数を超えて使用しているものが数多くあり、更新費用がなかなか捻出できない状況である。今後は、財政状況を鑑みつつ、医療需要動向に合わせた設備機器の検討とともに、より計画的な更新が必要であり、医療機器の整備については、今後も指定管理者と協議しながら適正に実施する。1床当たり有形固定資産は平均を大きく下回っており、投資規模は適切であるとする。

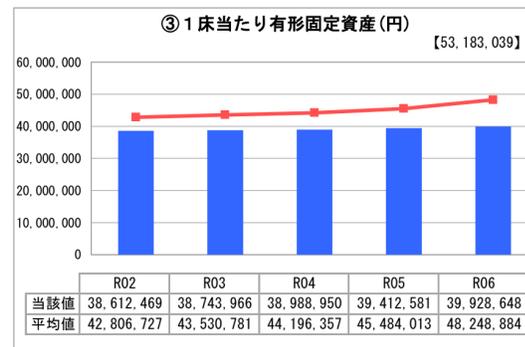
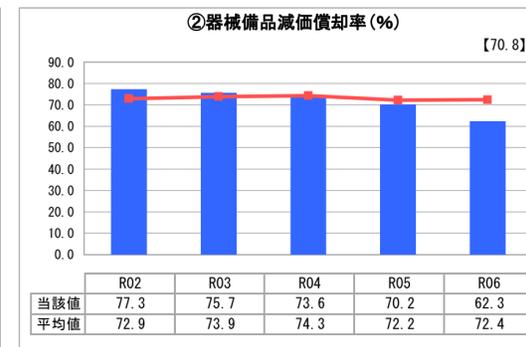
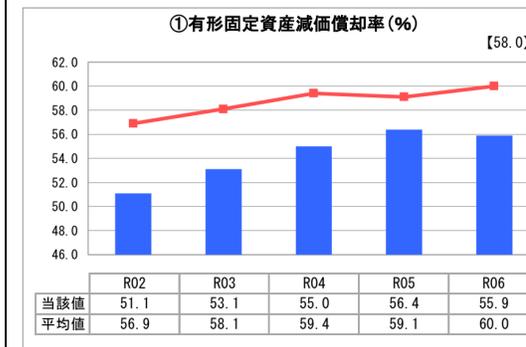
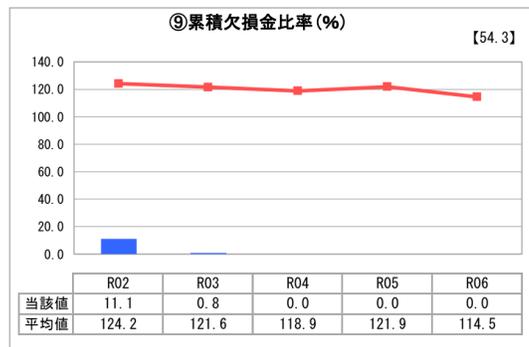
### 全体総括

累積欠損比率は令和4年度から3年連続0%となっており、過去の累積欠損金が解消されている状況である。しかし、経常収支比率、医業収支比率、修正医業収支比率いずれも100%を下回っており、また、病床利用率も62.1%と低いことから、収益性の不足が将来の財務状況に影響を及ぼす可能性があると思われる。今後は、外来収益の安定化ならびに病床利用率の改善を行ったり、入院収益を確保したりして、収益性向上に向けて取り組みたい。また、物品の共同購入や委託費の精査等を行い、費用構造の適正化を見直し、財務健全性を維持できるよう努めたい。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。